

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議

だい き だい ねん りんじかい
(第13期 第2年 臨時会)

ぎじろく
議事録

1 日時 2021(令和3)年11月14日(日) 午後2時00分～4時15分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 20人

アディテア ワルマン、カイ イーモンタン、金 海花、児玉
ノンディシャー、許 成龍、シン バスカ バハドール、スカーフ サラ
ディナ、スチエタ スリニヴァサン、張 亮、チョ チョ カイン、
ドウマヤス アリヤン、バテネフ アルチョム、ペレーラ ラヒル サンゲータ、
ポール ウツザル クマル、ボソ ミゲル アンヘル、ムハマド アイマン
アリフ、ユデク マルチン、尹 智夏、李 歆歆、劉 愛玲、

(2) 事務局

さとう かちょう すがはら たんとうかちょう さとう かちょう ほさき うえ しゅにん いがらし しょくいん たかはし
佐藤 課長、菅原 担当課長、佐藤 課長補佐、植 主任、五十嵐 職員、高橋
専門調査員

4 傍聴者 2人

5 会議次第(公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2021年度臨時会を開催する。今日は、レイバーマンさん、和田さん、前田さん、グエンさん、シディアエさんが欠席だ。それでは、今日の日程と配布資料の確認について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局佐藤課長補佐が説明)

ペレーラ委員長「次に、前回会議のまとめについて、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料1に基づき説明)

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、このあとは部会審議だ。全体会の再開は15時55分からとする。」

【国際コミュニティ部会】

尹副部会長「前田部会長が欠席なので、私が代理をする。それでは部会を始める。」

まずは、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明)

尹副部会長「何か質問はあるか。(なし)それでは、まず、提言の検討について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局高橋専門調査員が資料2-1、2-2に基づき説明)

尹副部会長「何か質問や意見はあるか。」

許委員「質問というより感想だが、まずシンプルにわかりやすくするというのは大賛成だ。それと、まずはスモールスタートということで、人口比率の高い川崎区に設置するという提案もデータがあって説得的だと思った。」

李委員「外国人の人口比率は住民票に登録されている人口の比率という理解であっているか。」

事務局高橋専門調査員「そのとおりだ。」

李委員「たとえば、住んでいないが、川崎市に働きに来ている人の人数は含まれていないということか。」

事務局高橋専門調査員「含まれていない。その人数を把握することはできない。」

ステータ委員「提言の長さには何か制限はあるか。」

事務局高橋専門調査員「制限はない。ただし、聞く側が理解しやすいようにできるだけシンプルな方がよいと思う。」

スカーフ委員「背景・理由にいろいろと書くのはよいと思うが、私もテーマはシンプルにした方がよいと思う。」

張副委員長「私はシンプルすぎると思う。2015年に提言してまだ実現していないので、場所や運営方法など含めてもっと具体的にしないと実現しないと思う。私としては、まずは流動的に各区に設置する。運営は市民文化局とボランティアで、毎月1回どこかの区で順番に行く。場所は区役所が難しいのであれば、河川敷で行うという提案だ。」

ステータ委員「具体的な文章が思いついているわけではないのだが、コロナ禍での必要性について追加できるとよいのではないか。」

許委員「前回も意見したが、個人的には外国人支援よりも多文化共生を前面に出すのがよいのではないかと思う。」

李委員「先ほどのステータさんの意見に賛成で、私もコロナのことを追加した方がよいと思う。」

事務局高橋専門調査員「確認したいのだが、背景・理由にコロナを追加するというのは、コロナ禍だからという意味か。それとも、コロナ後を見据えてという意味か。」

李委員「両方の意味だ。」

張副委員長「ボランティアとして川崎市に貢献したいと考えている人が多いことも追加したい。」

事務局高橋専門調査員「川崎市に貢献したい人たちの受け皿といった意味合いでよいのか。」

アディティブ委員「とてもよいと思う。」

スカーフ委員「私としては、横浜のラウンジの資料にあった青少年支援は重要だと思う。夏休みの宿題教室などは絶対にあった方がよい。」

尹副部長「それでは、いろいろと意見が出たが、事務局には今日出た意見を反映させてドラフトを作成して欲しい。残りの時間で前回話にあがっていた視察について決めたい。」

許委員「個人的には、今回準備してもらった資料に聞きたいことは書いてあったので、視察はしなくてもよい。」

チョ委員「私も情報としては十分に足りていると思う。」

尹副部長「視察ではなくて、個人的に見学に行った人たちもいるようだが、感想はあるか。」

張副委員長「駅前で立地もすごくよかった。中学生や高校生が放課後に宿題をしに来たりしているのもよかった。」

許委員「館長の方が、海外経験があって外国人の立場や気持ちがわかっているというのが大きいと思った。やはりスタッフには外国人に理解のある人がなって欲しい。」

ステータ委員「私が行ったところでは、日本語クラスに川崎から来ている人もいた。なぜ、川崎の日本語クラスに通わないのか聞いたら、川崎では都合のつく曜日や時間にやっていないということだった。横浜は毎日のようにあるし、平日以外でも通えるのがよいとのことだった。」

李委員「私はたまたま途中で場所がわからなくて迷っていたのだが、日本人の方に聞いたらすぐに場所を教えてくれたのが印象的だった。日本人も含めてしっかりと地域の人に認知されているというのはとても大事なことだと思う。」

尹副部長「それでは、時間になったので今日の部会はここまでとしたい。」

【安心生活部会】

児玉部会長「それでは、安心生活部会を始めたい。まずは事務局から説明をお願いする。」

(事務局五十嵐職員が資料3に基づき説明)

児玉部会長「何か質問はあるか。(なし)では、提言候補について事務局から説明をお願いします。」

(事務局五十嵐職員が資料3-1、3-2、3-3、3-4、3-5に基づき説明)

児玉部会長「何か質問はあるか。(なし)では、まずは多言語ツールの作成から審議したい。」

事務局五十嵐職員「先に確認したいのだが、もともとは多言語版の記入ガイドを作成するということだったと思うが、日本語と多言語の併記に変更するというのはそれでよいか。(異議なし)」

ユデク委員「私はポーランド語を担当しようと思うのだが、ポーランド人は30人くらいしかいない。それでもよいか。もっと人口の多い言語を作成しなくてよいか。川崎市が優先している言語があるなら、そちらを優先させた方がよいのではないか。」

児玉部会長「このツールは市ではなく、私たちが作成するものだ。市がつくるとなるとポーランド語は作成しないと思うので、逆に意味があるのではない

か。」

事務局五十嵐職員「ツールは今いる人だけではなく、これからの人にとっても役立つものになると思う。そうしたこともふまえて協力するかどうか判断して欲しい。」

児玉部会長「提言案のテーマと項目については何か意見はあるか。この方向性でよいか。（異議なし）背景・理由の構成については、ツールの有効性についてと保育にした理由の2部構成ということでよいか。（異議なし）」

事務局五十嵐職員「有効性について、何か意見やエピソードなどがあれば教えてもらえる嬉しい。」

児玉部会長「前回、乳幼児健診の間診票をつくったときとても大変だったが、私も子どもがいて実際に活用されて、役に立っているのを知ったときはすごく嬉しかった。先生にもすぐに伝わって、外国人だけではなく、日本人にとっても役に立っているというのもよかった。」

ペレーラ委員長「質問だが、併記のものを作成するが記入は日本語か。」

事務局五十嵐職員「書くのは日本語だ。」

劉委員「日本語じゃないと役所の人や先生がわからないので、日本語だ。ただ、記入ガイドがあるだけでもすごく助かる部分はある。言語に関しては、必要があれば市の方で増やしてもらうことは可能か。」

事務局五十嵐職員「以前のツールも市の方で予算を確保して言語を増やしたり、アップデートしたりしたのものもあるので、可能だと思う。」

ボソ委員「提言する理由だが、やはり困っているという声があるということと、正確に情報を伝えることが大事ということだと思う。」

バテネフ委員「理由はすでにデータから明らかだと思う。シンプルに、両親ともに外国籍の親が増えていて、もし日本語ができないとしたら申請書も書けないということだと思う。」

児玉部会長「そろそろ時間なので、オリエンテーションの再提言に移りたい。何か質問や意見はあるか。」

バテネフ委員「C案で川崎市の魅力を削ったのはなぜか。」

事務局五十嵐職員「A案は変更なし、B案は追加、C案は追加した分として川崎市の魅力を削った。単純にボリュームを調整するためだ。」

児玉部会長「まず、変更するかどうか決をとりたい。変更なしのA案に賛成の人は手を挙げてください。（0人）B案に賛成の人は手を挙げてください。」

(9人) C案に賛成の人は手を挙げてください。(2人) 何か意見はあるか。」

ボソ委員「1回目のときに外国人の参加者が少なかったので、どうやって参加者を増やすかということを考えるべきだと思う。」

バテネフ委員「オリエンテーションの必要性についてだが、まずは行政の制度や情報を知ってもらうということが大事だと思う。ルールとマナーも含めて、外国人が何も知らないと外国人自身が困る。そして、ルールやマナーを知らないと日本人に迷惑をかけることになるのでよくない。結局、外国人も日本人も困るが、逆にそこを解決できればうまく共生にもつながっていくと思う。」

事務局五十嵐職員「資料にあることの確認をしたいのだが、オリエンテーションの位置づけとしては情報を得るための入り口ということではどうか。(異議なし)」

児玉部会長「それでは、そろそろ時間なので、これで安心生活部会を終わりにする。」

【全体会】

ペレーラ委員長「それでは、全体会を再開する。まずは、部会報告からだ。国際コミュニティ部会の報告からお願ひする。」

尹副部会長「前田部会長が欠席なので、私が代理をする。今日は多文化共生ラウンジの設置について、まずはテーマの部分の話をした。内容に関しては、2015年の時点ではなかったコロナ禍での必要性を追加しようといった意見が出た。あとは、私たち外国人市民が地域貢献をするための受け皿にもなって欲しいという意見も出た。視察をどうするかということも課題にあがっていたが、以前に事務局が視察した際の資料がとても充実していたので、今回は時間もないので会議として視察には行かないことにした。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。(なし) 続いて、安心生活部会の報告をお願ひする。」

児玉部会長「今日は多言語ツールの作成とオリエンテーションについて、話し合いをした。多言語ツールの作成については、日本語と多言語の併記で記入ガイドを作成することになった。言語数は、今の時点で13言語の予定だ。オリエンテーションについては、外国人市民が情報を得るための入り口だということを確認した。」

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

張副委員長「オリエンテーションの再提言についてだが、11月に実施したオリエンテーションの参加人数は30人までとなっていたが、その枠を増やすことについて何か議論はあったか。」

児玉部会長「30人という枠はコロナ禍だからだ。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。(なし)今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いする。(なし)では、今日の日程は以上だ。次回は12月5日、日曜日、国際交流センターで開催する。これで、2021年度臨時会を終わりにする。」